

町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査（補充調査）について

1.調査の目的

適正規模及び適正配置を審議するうえで必要な事項のうち、2019年6月に実施したアンケート調査結果を補充する必要がある事項について追加で調査し、教員の意識を把握すること。

2.調査概要

調査名	町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート（補充調査）
調査実施期間	2019年9月20日～10月1日
調査対象	校長・副校長
調査対象者数	124人 うち小学校 84人 うち中学校 40人
回答者数 (回答率)	115人(92.7%) うち小学校 78人(92.8%) うち中学校 37人(92.5%)

3.主な設問

- (1) 法令で定める標準を上回る学級数の学校に関する下記の設問
- ① 学校運営上の課題と対策
 - ② ①のうち、最も影響の大きな学校運営上の課題
 - ③ ②の課題の影響が出る学級数
- (2) 適正規模となる1学年あたり学級数の範囲

4.調査結果

回答結果を集計・分析後、2019年10月28日の第3回審議会で報告いたします。

校長・副校長のみなさまのご意見をお聞かせください

町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査（補充調査） 質問紙

町田市立学校適正規模・適正配置等審議会（以下「審議会」）は、町田市教育委員会から児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするために「町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」を答申するよう諮問を受けました。

その諮問を受けて2019年8月27日に開催した第1回審議会では、2019年6月に実施した「町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査結果」について事務局から報告を受け、審議会にて意見交換を行いました。

その中で、調査項目の一つであった「1学年あたりの望ましい学級数※」について意見交換をした際に、町田市立学校には学級数の多い学校が存在しており、適正規模（適正な学級数の範囲）を議論するうえでは、学級数の多い学校における課題や、その課題に対してどのような対策が必要かについて現場の声を追加で調査する必要があるため、補充調査を実施することにいたしました。

※「1学年あたりの望ましい学級数」などの調査結果の要旨については、7ページをご覧ください。

そこで、町田市立小・中学校の校長・副校長を対象に、学級数の多い学校の運営上の課題とその対応策について補充調査を実施することにいたしました。調査はすべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご記入ください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ぜひ調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

2019年9月

町田市立学校適正規模・適正配置等審議会

■回答いただくうえでの注意点

- ① 回答は、校長及び副校長がお答えください。
- ② 回答は、Web フォームから回答する方式になりますので、**9月27日(金)までに Web フォームから回答ください。**
- ③ Web フォームへのアクセス方法及び回答方法については、別紙「町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査（補充調査） Web フォーム回答方法」を参照ください。
- ④ 回答に迷う場合には、回答者の考えにできるだけ近いものをお選びください。
- ⑤ アンケートに関するお問い合わせは、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

町田市教育委員会教育総務課総務係
電話：042-724-2172

あなた（回答者）について

問 1：あなたが勤務している学校の校種を選択してください。

【小学校・中学校】を選択

--Web フォーム上では、問 1 で回答した校種に応じて、問 2 以降の設問内容が異なります。--

問 2：あなたが勤務している学校名を選択してください。

【学校名】を選択

問 3：あなたの役職等を選択してください。

【校長・副校長】を選択

問 4：通常学級が法令で定める標準（1 校あたり 12～18 学級）を上回る学級数の学校で、これまで教員として勤務した経験はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。

- | |
|--|
| (1) 1 校あたり 19 学級～24 学級 ^{*1} の「小学校」で勤務した経験がある |
| (2) 1 校あたり 25 学級～30 学級 ^{*2} の「小学校」で勤務した経験がある
(文部科学省が定める大規模校) |
| (3) 1 校あたり 30 学級超 ^{*3} の「小学校」で勤務した経験がある
(文部科学省が定める過大規模校) |
| (4) 1 校あたり 19 学級～24 学級 ^{*1} の「中学校」で勤務した経験がある |
| (5) 1 校あたり 25 学級～30 学級 ^{*2} の「中学校」で勤務した経験がある
(文部科学省が定める大規模校) |
| (6) 1 校あたり 30 学級超 ^{*3} の「中学校」で勤務した経験がある
(文部科学省が定める過大規模校) |
| (7) 1 校あたり 19 学級以上の学校で勤務した経験はない |

※1:小学校…1 学年あたり平均 3 学級超、中学校…1 学年あたり平均 6 学級超

※2:小学校…1 学年あたり平均 4 学級超～5 学級、中学校…1 学年あたり平均 8 学級超～10 学級

※3:小学校…1 学年あたり平均 5 学級超、中学校…1 学年あたり平均 10 学級超

標準を上回る学級数の学校における課題と必要な対策について

問5-1：法令で定める標準（1 校あたり 12～18 学級）を上回る学級数の学校における課題（過去に困ったことや現在困っていることなど）について、あなたの考えにあてはまるものを選択してください。

また、差し支えなければ、下記の課題に対する対策や解決のアイデアについて回答欄にご入力ください。

	課題	そう思う	少し思う	あまりでもない	思わない	思わない
(1)	子どもたちの人間関係が希薄化しやすい (差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答	5	4	3	2	1
(2)	学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい (差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答	5	4	3	2	1

(3)	異学年間の教育・交流活動を設けにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(4)	教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(5)	ICT機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(6)	特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(7)	子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					
(8)	教員相互の連絡調整が図りにくい	5	4	3	2	1
	(差し支えなければ、課題に対する対策や解決のアイデアについてご入力ください。) ※自由記述回答					

問5-2：問5-1に掲げる課題以外に、法令で定める標準（1校あたり12～18学級）を上回る学級数の学校における課題（過去に困ったことや現在困っていることなど）がある場合には、その内容を自由記述欄にご入力ください。

また、差し支えなければその課題に対応するための対策や解決のアイデアについてありましたら、併せてご入力ください。

【問5-1以外の課題】（過去に困ったことや現在困っていることなど）

【回答欄に入力】

【問5-2で入力した課題に対応するための対策や解決のアイデア】

【回答欄に入力】

標準を上回る学級数の学校において最も影響が出ると思った課題とその学級数について

問 1 で「小学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問6-1 (小学校) : 問5で掲げた課題のうち、学校運営上最も影響の大きいと思ったものを、お答えください。(1つ選択)

- (1) 子どもたちの人間関係が希薄化しやすい
- (2) 学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい
- (3) 異学年間の教育・交流活動を設けにくい
- (4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい
- (5) ICT 機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい
- (6) 特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい
- (7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい
- (8) 教員相互の連絡調整が図りにくい
- (9) 問5-2で回答した課題

問6-2 (小学校) : 問6-1で回答した課題について、どれくらいの学級数から影響が出ると思いますか。

1 学年あたりの学級数でお答えください。(1つ選択)

- (1) 3学級超～4学級 ※1校あたり 19学級～24学級
- (2) 4学級超～5学級 ※1校あたり 25学級～30学級
- (3) 5学級超 ※1校あたり 30学級超
- (4) わからない
- (5) 影響は出ない
- (6) その他 ※回答欄にご入力ください

問6-3 (小学校) : 問6-2で回答した学級数を選択した理由を回答欄にご入力ください。

(回答必須)

【回答欄に入力】

問 1 で「中学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問6-1 (中学校) : 問5で掲げた課題のうち、学校運営上最も影響の大きいと思ったものを、お答えください。(1つ選択)

- (1) 子どもたちの人間関係が希薄化しやすい
- (2) 学校行事などにおいて、子どもたちに個別の活動機会を設けにくい
- (3) 異学年間の教育・交流活動を設けにくい
- (4) 教員の目が届きにくく、きめ細かな指導をしにくい
- (5) ICT 機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせにくい
- (6) 特別教室や校庭、体育館、プール等を利用した教育活動の展開に支障が生じやすい
- (7) 子どもや教員の人数が多く、管理職がマネジメントを行いにくい
- (8) 教員相互の連絡調整が図りにくい
- (9) 問5-2で回答した課題

問6-2 (中学校) : 問6-1で回答した課題について、どれくらいの学級数から影響が出るとお考えですか。

1 学年あたりの学級数でお答えください。(1つ選択)

- (1) 6学級超～7学級 ※1校あたり 19学級～21学級
- (2) 7学級超～8学級 ※1校あたり 22学級～24学級
- (3) 8学級超～9学級 ※1校あたり 25学級～27学級
- (4) 9学級超～10学級 ※1校あたり 28学級～30学級
- (5) 10学級超 ※1校あたり 30学級超
- (6) わからない
- (7) 影響は出ない
- (8) その他 ※回答欄にご入力ください

問6-3 (中学校) : 問6-2で回答した学級数を選択した理由を回答欄にご入力ください。

(回答必須)

【回答欄に入力】

適正規模となる学級数の範囲について

学校統廃合を含めた通学区域の見直しの議論を行った結果、学校統廃合を実施する場合には、統合先の学校施設の老朽化の状況に応じて建て替えを検討することになります。

2019年度の審議会では、子どもたちがより良い教育環境で学ぶことができるようにするために必要となる「適正規模の学級数」を、少子化と学校施設の老朽化が進行している状況を踏まえて、将来にわたって維持するために必要な「適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）」を議論いたします。

そのうえで、2020年度の審議会において、学校施設に必要な施設の規模（教室数など）や機能を検討する必要があることから、下記の質問をします。

問1で「小学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問7-1（小学校）：今後の町田市立小学校において、「適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）」は、何学級までだと思いますか。（1つ選択）

※アンケート調査でお聞きした「小学校の1学年あたりの望ましい学級数」の調査結果は、7ページの「2 アンケート調査結果（要旨）」をご覧ください。

- | |
|---------------------|
| (1) 3学級 ※1校あたり 18学級 |
| (2) 4学級 ※1校あたり 24学級 |
| (3) 5学級 ※1校あたり 30学級 |

問7-2（小学校）：その学級数を選択した理由を回答欄にご入力ください。（回答必須）

【回答欄に入力】

問1で「中学校」を選んだ教員の方にお聞きします。

問7-1（中学校）：今後の町田市立中学校において、「適正規模となる1学年あたり学級数の範囲（上限）」は、何学級までだと思いますか。（1つ選択）

※アンケート調査でお聞きした「中学校の1学年あたりの望ましい学級数」の調査結果は、7ページの「2 アンケート調査結果（要旨）」をご覧ください。

- | |
|----------------------|
| (1) 4学級 ※1校あたり 12学級 |
| (2) 5学級 ※1校あたり 15学級 |
| (3) 6学級 ※1校あたり 18学級 |
| (4) 7学級 ※1校あたり 21学級 |
| (5) 8学級 ※1校あたり 24学級 |
| (6) 9学級 ※1校あたり 27学級 |
| (7) 10学級 ※1校あたり 30学級 |

問7-2（中学校）：その学級数を選択した理由を回答欄にご入力ください。（回答必須）

【回答欄に入力】

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

※9月27日（金）までにWebフォームで入力して回答をお願いします。

(参考 1) 町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査結果について

1 アンケート調査概要

調査名	町田市立小・中学校の 教育環境に関するアンケート（保護者・教員）		町田市立小・中学校の 地域における役割に関する アンケート（市民）
調査期間	6月19日～7月5日		6月19日～7月9日
調査対象	児童・生徒の保護者	教員	20歳以上の市民
	小学校 6年生、中学校 3年生 ※各校1学級 +特別支援在籍児童・生徒	校長、副校長、学年主任 (小学6年、中学3年) 特別支援担当教員	無作為抽出
調査対象者数	2,166人 うち小学校 1,453人 うち中学校 713人	217人 うち小学校 147人 うち中学校 70人	3,000人
回答者数 (回答率)	1,700人(78.5%) うち小学校 1,111人 (76.5%) うち中学校 589人 (82.6%)	181人(83.4%) うち小学校 119人 (81.0%) うち中学校 62人 (88.6%)	1,159人(38.6%)

2 アンケート調査結果（要旨）

設問内容	回答者	1位	2位	3位				
1学年あたりの望ましい学級数	小学校 保護者	3学級	(65.0%)	2学級	(17.4%)	4学級	(12.9%)	
		教員	(78.2%)		(16.8%)		(2.5%)	
	中学校 保護者	4学級	(30.7%)	5学級	(27.7%)	3学級	(23.9%)	
		教員	(66.1%)		(17.7%)		(14.5%)	
	許容できる片道の 通学時間	小学校 保護者	30分程度	(48.9%)	15分程度	(47.3%)	45分程度	(1.4%)
			教員	(48.7%)		(47.9%)		(3.4%)
中学校 保護者			(68.3%)		(20.3%)		(6.0%)	
		教員	(83.9%)		(9.7%)		(6.5%)	
学校施設の建て替え (改築)の考え方	保護者	地域ごとに建て替える 学校を決めて、重点 的に投資して建て替 える	(55.3%)	建て替えは行わず、市民の負担 が増えない範囲で、改修できる 箇所だけ改修する(20.8%)	市民の負担が増えても、すべて の学校を建て替える (13.6%)			
	教員		(60.2%)	市民の負担が増えても、すべて の学校を建て替える(23.2%)	建て替えは行わず、市民の負担 が増えない範囲で、改修できる 箇所だけ改修する(11.0%)			
	市民		(61.7%)	建て替えは行わず、市民の負担 が増えない範囲で、改修できる 箇所だけ改修する(18.6%)	市民の負担が増えても、すべて の学校を建て替える(8.6%)			
学校統廃合を含め た通学区域の見直 しを検討するうえ で、必要な配慮 (自由記述)	保護者	報告書参照						
	教員	保護者回答：P111～P164（総件数808件） 回答者数の47.5%						
	市民	教員回答：P165～P171（総件数144件） 回答者数の79.6%						
		市民回答：P172～P215（総件数668件） 回答者数の57.6%						

※すべての調査結果及び自由記述の内容については「町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査 報告書」をご参照ください（8ページでご案内している拠点共有フォルダに掲載しています）。

※町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査 報告書は、拠点共有フォルダの下記の場所に掲載しています。

拠点共有フォルダ>教育委員会>002 マニュアル>16 適正規模・適正配置
>01_アンケート調査>01_町田市立小・中学校の教育環境に関するアンケート調査
>03_【報告書】町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査 報告書

(参考 2) 第 1 回 審議会の開催結果について

(1) 審議会への諮問

町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方について

教育委員会から審議会に対して、町田市教育目標である「夢や志をもち、未来を切り拓く町田っ子を育てる」の実現を基本的視点として、町田市立学校のより良い教育環境を整備し、充実した学校教育を実現するために必要となる適正な学級数及びその学級数を実現するうえでの通学距離・通学時間や学校の位置などの学校配置の基本的な考え方を定める上記事項について答申するよう諮問を受けました。

(2) 主な審議内容

①1998 年の答申内容及びその後の環境変化の確認

適正規模・適正配置の検討に必要な現状と課題を共有するために必要な下記の内容について、事務局から説明を受けました。

- ア 1998 年に審議会が出した答申内容
- イ 1998 年答申後の学校教育を取り巻く環境変化
- ウ 2019 年 6 月に実施したアンケート調査結果

②現状と課題の意見交換

事務局からの説明後、審議会委員同士で適正規模・適正配置に関する現状と課題について、各審議会委員の問題意識や考え方について意見交換を行いました。その結果、下記の内容について審議会委員の認識が一致していることを確認しました。

(認識が一致した事項)

- ア アンケート調査結果を尊重した議論を行うこと
- イ 将来にわたって子どもたちの教育環境を充実させるためには学校統廃合の議論が必要であること

※第 1 回審議会の配布資料は、拠点共有フォルダの下記の場所に掲載しています。

拠点共有フォルダ>教育委員会>002 マニュアル>16 適正規模・適正配置
>02_審議会資料>01_第 1 回